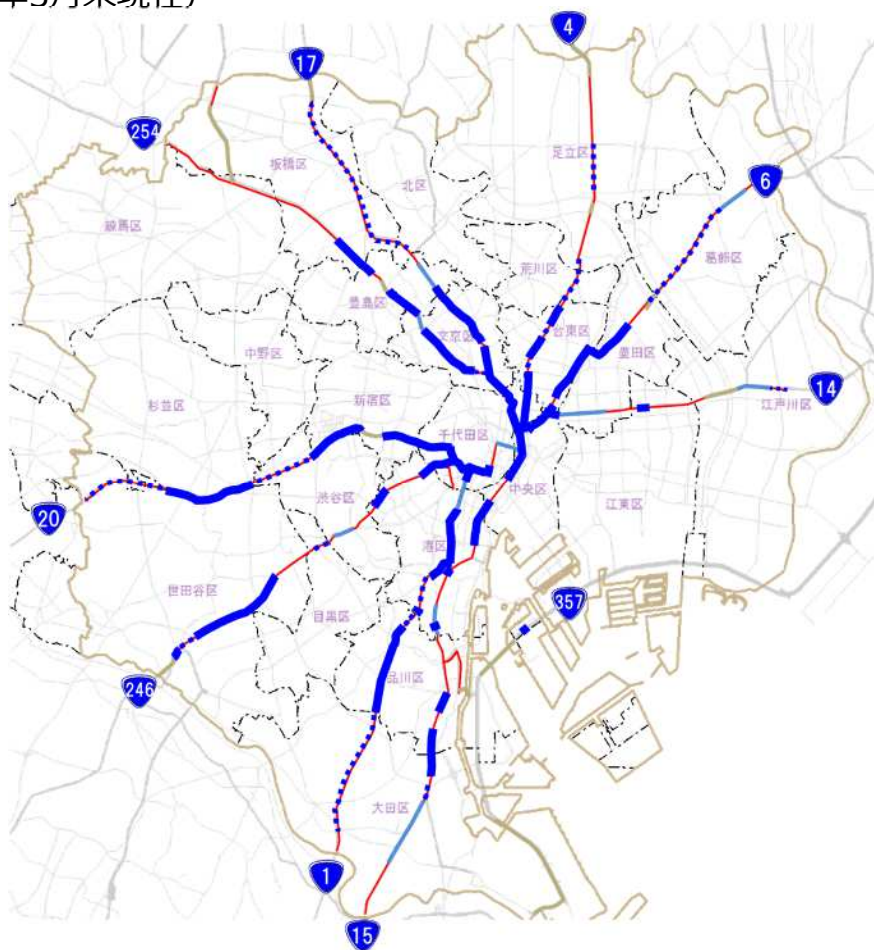







○自転車通行空間整備状況(令和6年3月末現在)

- 令和3年2月に策定した【東京23区内における直轄国道の自転車通行空間の整備計画】に基づき、直轄国道の自転車通行空間整備を推進している。
- 令和元年度末までに整備済みの区間(約17km)、自転車通行規制区間、道路の拡幅事業等が進行中の区間を除いた整備計画の検討対象区間(延長約104km)を設定している。
- 検討対象区間のうち、現状の道路状況等を踏まえ、車道上の自転車利用者の安全性と利便性向上を考慮し概ね3年間で約60kmの整備を進めることとしており、残り約26kmについて、引き続き関係機関と協議しながら整備を進める。

■自転車通行空間整備状況 (令和6年3月末現在)



凡例

	整備済 約52km	～R1	約17km
		R2	約10km
		R3	約10km
		R4	約5km
		R5	約9km
	R5以降(設計中)	約26km	
	整備検討対象区間		
	自転車の通行規制区間		
	道路の拡幅事業等が進行中の区間		

※ 整備予定箇所の路線・延長等については協議状況等により変更となる可能性がある

○整備形態 ～道路空間再配分による整備を検討中～

- 整備形態は、現地の道路状況等を踏まえ、まずは早期に自転車通行空間を確保するため、概ね3年間では、安全性の確保を前提とした上で、「自転車専用通行帯」、「車道混在（矢羽根）」の整備形態を基本として、自転車通行空間の連続性にも配慮しつつ整備を進めている。
- また、現状の道路状況等では自転車通行空間の確保が困難な場合には、道路空間を再配分（第一車線を自転車専用通行帯に変更）し、安全な自転車通行帯の整備を国道1号港区・品川区内で検討中。

自転車専用通行帯の整備状況



国道6号
小伝馬町交差点
付近
(R3整備)

■道路空間再配分による整備検討 課題

- 第一車線及び路肩が狭く、自転車専用通行帯の整備は困難
- 停車車両が多く、第一車線を塞いでいる



対応方針（検討中）

- 第一車線を自転車専用通行帯に変更し、車線の再配分による自転車通行空間の確保及び安全性向上策の実施等を検討しており、関係機関と協議中

車道混在（矢羽根）の整備状況



国道15号
浜松二丁目交差点
付近
(R4整備)

都道における道路空間再配分整備事例（東京都整備）

